

財団法人 渥美国際交流奨学財団

2009年度奨学生募集要項（北京・ソウル面接枠）

渥美国際交流奨学財団は、海外の大学院博士課程に在籍し、日本の関東地方大学院等に1年間留学して博士論文のための研究をすることを希望する研究者を対象に、2009年度（2009年4月より2010年3月、あるいは2009年8月より2010年7月まで）奨学生を、下記の要項に従って募集します。

（1）応募資格（下記の資格すべてに該当すること）

1. 海外の大学院博士課程に在籍し、1年間日本の大学院に研究員等として在籍して博士研究を遂行することを希望し、当財団の奨学金支給期間あるいはその後1年以内に博士号を取得する見込みのある方。国籍は問いません。
2. 日本における自分の所属する大学院研究科（研究室）と自分の居住地が、関東地方（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・栃木県・群馬県）にある方。
3. 国際理解と親善に関心を持ち、当財団の交流活動に積極的に参加する意思のある方。
4. 渥美奨学金の支給期間に、他の奨学金や留学生対象の研究助成金を受ける予定のない方。（当財団は他の奨学金や留学生を対象とした研究助成金との重複受給を認めておりませんので予めご了承ください）

（2）交流活動

1. 当財団は、毎月の例会で学業や生活について報告していただいた上で、奨学金を支給します。例会に参加できない場合は、奨学金を事務局までとりに来ていただきます。尚、例会等に参加するための交通費は支給しませんので、予めご了承ください。
2. 毎年数回奨学生全員（元奨学生を含む）と当財団の理事・評議員ならびに選考委員を招き、親睦会を催します。3月には研究報告会を開催し、当該年度奨学生に研究成果発表をしていただきます。
3. 7月下旬に2泊3日の軽井沢旅行へ招待します。
4. 博士号取得者の海外学会派遣プログラム：渥美奨学生で博士号を取得した方には、1回に限り、海外で開催される学会等に参加するための旅費・宿泊費および参加費（上限30万円）を支給します。海外在住の場合は日本での学会等への旅費・宿泊費および参加費にあてることができます。
5. 渥美奨学生は、自動的に同窓会（ラクーン会）に入会していただきます。また、ラクーン会ネットワークを基に設立した関口グローバル研究会（SGRA）にもご入会いただき活動に協力していただきます（<http://www.aisf.or.jp/sgra> 参照）。

（3）奨学金の詳細

1. 奨学金は月額20万円です。2009年度は海外での面接審査により2～3名採用します。但し、北京で面接した方とソウルで面接した方が必ず1名以上になるようにします。
2. 奨学金の支給期間は1年間（2009年4月～2010年3月、または2009年8月～2010年7月）とします。継続は認められません。

3. 奨学生が次のいずれかに該当すると認められた場合は、奨学金の支給を停止します。
 - a. 在籍する大学院の学籍を失ったとき。
 - b. 病気その他の事由により修学または研究を継続する見込みがないとき。
 - c. 指導教官から修学または研究の継続が不適格と認められたとき。
 - d. 倫理に反する行為が認められたとき。
 - e. 奨学金申込書に虚偽が認められたとき。
 - f. 正規の就職が決まったとき。
 - g. 当財団が奨学金の支給の継続を不相当と認めたとき。

(4) 募集方法

1. 申請者は、下記書類を2008年8月31日(日)までに、渥美財団事務局へ郵送してください(必着)。
2. 第1次提出書類
 - a. 申込書(所定用紙)写真を貼付(上半身の近影・3.5×5cm)
本人の自筆で、日本語で記入してください。記入は黒いペンで楷書、アルファベットは活字体を使ってください。
 - b. 現在の指導教官の推薦状(書式自由)。推薦者は、候補者の現在の研究の意義と学業の進行状況についてご説明ください。推薦状が日本語でない場合は、申請者が日本語の訳をつけてください。
 - c. (日本以外の国にある)現在の大学の在学証明書
 - d. 日本の大学院等の受け入れの内定を証明する書類
(奨学金があれば研究員等として1年間受け入れるという日本側の指導教官予定者の内諾書など)
 - e. 履歴書(A4サイズの紙に日本語でワープロ横書き1~2ページ。但しアルファベットの固有名詞をカタカナに直す必要はありません。)
書式は自由ですが、氏名、所属大学/研究科、学歴(高校より、学校の所在地を記入)、職歴(勤務地を記入、学業に関連するアルバイトも含む)、取得資格、賞罰/奨学金/研究助成金(受給期間と金額も記入)、ボランティア活動、について必ず記入してください。従事した年月を付記してください。資格、賞、奨学金や助成金、ボランティア活動は書類審査においてプラスに評価されます。記入がない場合はその項目には加点されません。
 - f. 研究の要旨(A4サイズの紙に日本語でワープロ横書き、600字程度、1ページ以内)
一般の人にわかるように、研究の意義と概要をやさしく説明してください。できるだけ図表を挿入してください。但し、図表をいれても必ず1ページ以内に納めてください。
 - g. 発表論文のリスト(A4サイズの紙に日本語または英語で。中国語や韓国語の場合は、英語か日本語の訳をつけてください。ワープロ横書き、何ページでも可)

- ・リストの一番上に、査読発表論文の数を書いてください。また、インパクト・ファクターのポイントをお持ちの方は、明記してください。
 - ・今までに発表した書籍、学術雑誌に発表した論文と、学会等で口頭発表した論文を分け、全てリストアップしてください。何ページになっても構いません。共同著者名、論文題名、雑誌名／出版社名／学会名、発表年月日などを付記してください。学部卒業論文と修士論文は、学術雑誌や学会などで発表した場合のみ記載してください。共著の場合は、必ず定められた順番で著者名を記入し、当人の名前に下線を引いてください。また、学術論文以外の出版物のある方は、別項をたてて記入してください。
- 発表論文数は審査時の重要なポイントですから、全て記入することをお奨めします。

- h. 研究計画書（A4サイズの紙に日本語でワープロ横書き、図表も含めて4ページ以内）
博士論文の研究について①背景及び予測される成果②内容と方法③進行状況と博士論文提出までのスケジュール④この研究の今後の展望について書いてください。できるだけ図や表を挿入してください。

*上記の提出書類の返却はいたしませんのでご了承ください。

*申込書類は、コピーをしますから、ホチキスでとめないでください。

（5）選考の日程

1. 第1次選考：書類選考

*第一次選考の結果は、北京面接希望者は9月10日までに、ソウル面接希望者は9月20日までに、申請者全員にEmailで通知します。

2. 第2次選考：面接選考

*書類審査合格者を対象にした面接審査を、北京枠は9月下旬に北京大学、ソウル枠は10月中旬に国民大学にて、日本語で行います。

*最終選考の結果は、10月末までに、北京またはソウルで面接した候補者全員にEmailで通知します。

（6）選考の方針

a. 当財団は、奨学生の皆さんに自分とは異なることをしている人と会い、自分の専門以外のことを話し合う場を提供したいと思います。奨学金は銀行振り込みではなく、必ずお目にかかってお渡しし、緊密なコミュニケーションをとりながら奨学支援を行います。奨学期間が終わった後も、母国にもどられた後も連絡を取り合い、ゆくゆくは世界的な規模の人的ネットワークを築けたら素晴らしいと思っています。そのため、当財団は、学問的に非常に優秀なだけでなく、社会問題や国際交流に関心のある方を優先します。

b. 渥美財団のネットワークは、どんなにささやかではあっても世界の調和ある発展のために役立たせたいと考えております。そのため、博士論文の研究内容が人類や社会、あるいは自然との「調和ある発展」へ貢献する可能性が大きいと考えられるものを優先します。

c. 当財団の奨学金支給期間あるいはその後1年以内に博士号を取得する見込みのある方を優先します。この期間に博士号取得の見込みのない方は、次年度に応募してください。

（7）個人情報の管理について

渥美財団は、個人情報法令に従って安全かつ適切に取扱います。申込書類にご記入いただく個人情報は選考の目的にのみ使用いたします。ただし、上述の通り、合格者については、申込書類を財団にて保管し、ネットワーク事業の基本情報として活用します。また、氏名、国籍、性、在籍大学、研究分野のリストを作成して渥美財団のホームページで公開します。また、合格者リストは渥美財団関係者他、いくつかの民間奨学財団と（財）助成財団センター（助成金受給者データベースをインターネットで公開中）にも送付しますので、予めご了承ください。不合格者の申込書類は、一定の年数財団で保管した後廃棄処分します。

お問合せは：渥美国際交流奨学財団事務局

112-0014 東京都文京区関口3-5-8

Tel: 03-3943-7612 Fax: 03-3943-1512

E-mail: aisf-office@aisf.or.jp

Homepage: <http://www.aisf.or.jp>
